

■ベーシックライフ■

ほぼ週刊【松村拓也のメールマガジン】第 167 号

こんにちは、松村拓也です。

E-Mail と Facebook で松村拓也の活動についてほぼ毎週お届けしています。

名刺交換した方や、突然思い出した方にもお届けしますので、ご迷惑であればお知らせください。

できれば勤務先でなく、個人のアドレスにお届けしたいので、ご連絡ください。

ご意見、ご質問大歓迎です。

.....

167 目次

- 1. ブログから：ベーシックライフ
- 2. トピックス：名栗 森人間コンテスト 現地説明会
- 3. 今後の予定：今週・来週以降
- 4. アクセスポイント：問い合わせ先
- 5. このメルマガについて

バックナンバーはこちら

<http://nanoni.co.jp/magazine/>

.....

1. ブログから：ベーシックライフ

歴史はあたかも、地主を滅ぼそうとしていたように思えたのだが、それは違っていたようだ。土地利用の推進は政府が担っているように思われているが、それはインフラや資源となる公有地だけであり、暮らしや経済を担う民有地からは固定資産税や相続税を取るだけだ。補助金だらけの福祉やサポートが充実するばかりで、国民の自立性や活力は失われ、社会や会社への依存度は増すばかり。1000 年以上続いていた封建社会を終わらせたものの、次の行先がまだ見えない。明治維新が封建制度を打倒したのは、民主化を進めるためでなく外敵から日本を守るためだったことが影響しているかもしれない。そして今、世界でも類を見ない規模で空き家問題が進行しているが、それは「後継者不足」という病であり、人類の存続を支えてきた「継承」という仕組みを封建時代の産物と勘違いして放棄してしまっているかのように、僕には見える。

地主の学校の執筆が進むにつれ、いよいよこの本の結論を書く時が近づいてきた。それは、新しい時代にふさわしい新しい地主は、何を指すべきなのかということだ。僕は迷わず、この「継承」の再生を目指したいが、問題は「何を継承するのか」ということだ。ご存知と思うが、僕は 1999 年に建設会社を倒産させ、時効になったとはいえ今でも 30 億の負債を背負う失敗者だ。その僕が、こうして元気に暮らせることに、何よりも感謝の気持ちを持っている。どんなに失敗してもどんなに困っても、いつでも帰る場所がありそこで何とか生きられるなら、僕たちはやがて元気を取り戻すことができる。僕が、未来に継承したいのは、そういう場所のこと。具体的には、家業や実家、故郷などをイメージして欲しい。もしかすると、これらの場所を守るために人々を縛り付けていたのが封建社会だったのかもしれない。だが、僕が目指したいのは、これらの場所を持つことで、安心して世界に飛び出し、チャレンジできるようになることだ。

僕は今、笑恵館をはじめとする各所で、土地や施設そして地域社会を解放することに取り組んでいる。それはなぜかと考えると「そこを自分の家とってくれる人と出会うため」だ。そして、それらの人を受入れて、家族の

ように交流し、そこを实家や故郷にして欲しいから、あるいは一緒に働いて、それを家業と認めて欲しいから。そうすれば、その人たちはたとえそこを出て行っても、疲れた時や、困ったとき、そして子どもを育てたり、年老いた時には帰ってくると僕は思う。封建時代と異なり現代は、一生を同じ場所ですらすような時代じゃない。誰もが好きな場所に行き、好きなことをすればいい。だが、そうして得られたことを誰かに引き継ぎたいと願ったり、そこで儲けたお金で何かを作りたいと思った時、それを持ち帰るのが実家や家業そして故郷だと思う。そこで子供を育て、そこで老後を過ごすことで、そこは次第に素晴らしいまちになるだろうが、何より大切なことはそこが「自分のまち」となることだ。故郷を「懐かしい過去の場所」でなく、「未来に備えて育てる場所」に変革したい。

そこで僕は「ベーシックライフ」という言葉を思いついた。これは「ベーシックインカム（最低限所得保障）」という言葉に対抗する概念で、「政府がすべての国民に対して最低限の生活を送るのに必要とされている額の現金を定期的に支給する」のではなく、「僕たち市民が家族に対し最低限の暮らしを提供する」ことを言う。まず、土地から得られる不動産収入を財源に雇用を生み出す「ベーシックビジネス」を立ち上げ、この従事者、参加者、賛同者を「ベーシックファミリー」と位置づけ、その土地を「ベーシックランド」と名付ける（以下、ベーシックはB:と略す）。そして、「B:ランド」の資源と「B:ビジネス」の収益を財源に、「B:ファミリー」に対して提供する最低限の生活を「B:ライフ」と位置付ける。B:ファミリーは血縁者に限定せず、B:ランドを实家や故郷と考える人たちを迎え入れるが、B:ランドやB:ビジネスに拘束せず、自由に活躍して欲しい。そして、B:ランドを实家と思つて帰つて来た時は、家族として食事や寝場所を提供するし、子育てや介護、看護などの協力をする。これがベーシックライフのイメージだ。

もちろん誰もが自分の居場所や住まいをB:ホームにすればいい。だが、考えてみるとそれは至難の業だ。まず、子育てや介護など小さな家族や共稼ぎでは大変だ。その上子供たちは進学・就職して実家を去り、新たな家庭を築いて帰つてこないし、それを見越した親たちは子供の負担にならないよう無理な同居は望まない。したがって、持続可能な家族になるためには、B:ファミリーのように複数家族が集まる必要がある。さらに、家族が協力し合うには、近隣関係であることが望ましい。だから僕は、いきなりB:ファミリーを募るのでなく、ゆるやかな交流から始めているのであつて、決して茶飲み話で楽しむために交流しているわけではない。困った人や寂しい人を手助けしたいのは、元気になるって活躍して欲しいから。そしてできれば成功し、故郷にも貢献してもらいたいから。

この夢なら、誰もが挑むことができるが、特に大切なのが「土地の所有者」だ。仕事・家族・地域をつなぐのはまさに土地だから。土地は地面というよりは空間そのものであり、現実世界そのものだ。だから僕らは家族になつて所有権を共有し、みんなが世界の所有者になるべきだと思う。そして、すべての生き物と同じように、誰もが生きていける世界にしたい。生きるために税金を払うような情けない社会でなく、自分たちの力で生きて行けるようになりたいと思う。

<http://nanoni.co.jp/20180713-2/>

.....

2. トピックス：名栗 森人間コンテスト 現地説明会

森人間とは、

日本の国土は60%以上が山林で、そのほとんどが急斜面です。
そのため、かつては林業や炭焼きなど活発に利用されていた時代もありましたが、現在は多くの山林が放置されています。
そこで私たちは森のオーナーとして、もっと自由な発想で森を活用するために、森に関するあらゆる提案を募集し、何でもやってみようと思い立ちました。
森人間とは、「森を活用する全ての人」のこと。
私たちは、世界中からアイデアを募りたいと思います。
まずは、現地をご覧いただくために見学会を開催しますので、奮ってご参加ください。

主催・審査を担当する「名栗の森オーナーシップクラブ」は、「森を面白くするにはまずオーナーが面白くなろう」と一昨年の秋から毎月森に集まって、様々な活動を行ってきました。
7月からは、この活動をコンテストイベントに切り替えます。
まずは現地をご案内する「現地説明会」を開催しながら皆さんからのご提案を受け付けて、10月にプレゼン大会を行い、11月には採用案を決定します。
採用案に対し、賞金などは出ませんが、オーナーの許可が授与されますので即実行が可能となります。
したがって、応募条件はただ一つ「名栗の森で実現可能なこと」です。
また、プロジェクト実施に当たっては、あなたを採用した審査員をメンバーに加えていただき伸び伸びと活動していただきますが、ビジネスの場合は、主催者に若干の配当をお願いします。

エントリー・活動の詳細はこちら
<http://land-resource.org/naguri/>

第1回の説明会は下記の要領で開始しますが、参加者の顔ぶれにより、内容は随時調整いたします。
なお当日は、メンバーが沢登り体験を企画しておりますので、よろしければこちらにもご参加ください。
雨天の場合でも、可能な方法で決行致します。

参加ご希望の方は参加ボタンをポチッと押して、コメントもお書き添えください。

■現地説明会①（7月例会）

日時：7/22(日) 10時（電車の方は9:30 飯能でピックアップ）

集合：辻村屋保全山荘 埼玉県飯能市下名栗 1111-2

費用：会員及び同伴者と森人間エントリー者は無料

一般 2,500円 どなたでも参加できます。

.....

内容：（参加者が確定したら、再調整します）

10:00 説明会 山荘にて（コンテストについて）

11:00 昼食・現地説明など 名栗の森にて（整備作業）

希望者は、沢登り体験にお連れします

14:00 解散

装備：山林内での軽作業ができる服装、軍手、筆記用具、お弁当

.....

必要な機材や、現地での場所づくりなど、事前の計画や依頼事項など、情報交換は掲示板
<https://www.facebook.com/groups/naguriforest/>
の方に気軽にコメントしてください。
詳細は後日参加者にご連絡します。

++++++++
オーナーシップクラブへの入会は、
持ち主の仲間になることを意味します。
家族や団体で入会すれば、
年会費 3 万円で、メンバー何人でも、何回でも
森を利用することが可能です。
++++++++

■事務局・連絡先

名称 一般社団法人 日本土地資源協会
住所 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-27-19
HP <http://land-resource.org/>

.....

3. 今後の予定：今週・来週以降

- 凡例 ○面談歓迎：来て下さればあなたの面談を優先。
- ◎呼出歓迎：あなたのお誘いを優先、訪問可能。
- 同行可能：僕の訪問先にお連れします。
- ★参加可能：あなたも参加可能なイベント。

.....

- (月) 7/16 ○終日御宿で面談可
10-17 時 ★御宿グッドネイバーズ (御宿)
- (火) 7/17 ○なのに作業日 (青葉台)
- (水) 7/18 ○なのに作業日 (青葉台)
- (木) 7/19 ○午後から笑恵館で面談可
12-18 時 ★なるほどデイ (笑恵館)
18-20 時 ★持ち寄り食事会 (笑恵館)
- (金) 7/20 ○なのに作業日 (青葉台)
- (土) 7/21 ○終日笑恵館で面談可
12-18 時 ★地主の学校を語る会
- (日) 7/22 ○休業日
10-14 時 ★名栗 森人間コンテスト現地説明会 (飯能)
15-16 時 ●森と市場 (奥多摩フィールド)

■その後のイベント

- 7/26 ★笑恵館クラブ運営会議（笑恵館）
- 7/28 ★地主の学校を語る会（笑恵館）
- 8/09 ★日本土地資源協会経営会議（笑恵館）
- 8/09 ★笑恵館クラブ運営会議（笑恵館）
- 8/16 ★なるほどデイ・持ち寄り食事会（笑恵館）
- 8/19 ★御宿グッドネイバーズ（御宿）
- 8/26 ★名栗の森オーナーシップクラブ例会（飯能）

相談のある人、一杯やりたい人、歓迎です。

松村の予定はこちらで随時公開しています。<http://nanoni.co.jp/schedule>

.....

4. アクセスポイント：問い合わせ先

松村拓也

メール takuya@nanoni.co.jp

携 帯 090-9830-3669 taku8823@ezweb.ne.jp

自 宅 株式会社 なのに(平社員)

〒226-0016 神奈川県横浜市緑区霧が丘 3-15-1

<http://nanoni.co.jp/>

職 場 一般社団法人 日本土地資源協会(代表理事)

<http://land-resource.org/>

笑恵館 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-27-19

<http://shokeikan.com/>

メール配信をご希望の方はこちら

<http://land-resource.us10.list-manage.com/subscribe...>

フェイスブックグループはこちら

<https://www.facebook.com/groups/atamanonaka/>